

平成17年度 医療安全に関するコスト調査

－ 調査結果報告 －

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査の内容	2
3. 調査結果の概要	8
3.1. 書面調査の方法	8
3.2. 書面調査結果の概要	9
3.3. ヒアリング調査結果の概要	20
3.4. 調査結果の考察と今後の課題	21
4. 書面調査の結果	23
4.1. 取り組み状況の一覧	23
4.2. 施設ごとの調査結果	29
5. ヒアリング調査の結果	62
附録1. 初期費用と維持・運用費用	68
附録2. 効果計測に関連する文献の動向	80
医療安全に関するコスト調査 調査シート	81
17年度医療安全・質に関するコスト調査（病院：300床以上）	142

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

医療安全に係る診療報酬として、入院基本料に対する1) 入院診療計画未実施減算、2) 院内感染防止対策未実施減算、3) 医療安全管理体制未整備減算—など、既に施設基準が定められ、点数化されているものがある。

一方、医療安全の向上のために1) 安全に関する管理体制の充実、2) 医薬品の安全確保、3) 医療機器の安全確保、4) 医療安全における情報技術 (IT) の活用、5) 医療従事者の資質向上—といった項目への取り組みの強化が求められており、本調査は、医療安全に関するコストの実態を把握し、診療報酬体系における評価の在り方について検討するための資料を作成するとともに、今後の医療安全への取り組み方を検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

平成17年度においては、医療安全に関して先進的な取り組みを行っている医療機関等を対象に、医療安全を保証・改善させるための活動状況等を明らかにすることを目的とする。さらに、平成17年度調査の結果を踏まえ、医療安全に係るコスト範囲等を確定し、平成18年度にはより幅広い医療機関等を対象として、医療安全に関するコスト調査を実施するものとする。

(2) 調査の対象

- 病院、一般診療所、歯科診療所及び保険薬局を調査対象とした。
- 調査対象の選定に当たっては、病院のうち下掲の厚生労働科学研究の調査対象としていない規模の病院 (300床未満)、一般診療所 (有床)、一般診療所 (無床)、歯科診療所及び保険薬局を対象として書面調査、ヒアリング調査を行った。
※300床以上の病院10施設程度については、厚生労働科学研究「医療における安全・質確保のための必要資源の研究」(主任研究者 今中雄一・京都大学教授) から調査結果を提供していただいた。

(3) 調査の実施体制

- シンクタンクへの委託調査とし、当該シンクタンク内に今中雄一・京都大学教授を主任研究者とする検討委員会を設けて調査を行った。

主 査：今中 雄一 京都大学大学院医学研究科／教授

委 員：(五十音順)

井上 章治	有限会社井上調剤薬局／代表取締役 (日本薬剤師会)
猪口 雄二	医療法人財団寿康会病院／理事長・院長 (全日本病院協会)
高津 茂樹	高津歯科医院／院長 (日本歯科医師会)
土屋 文人	東京医科歯科大学歯学部附属病院／薬剤部長 (日本病院薬剤師会)
松田 晋也	産業医科大学医学部公衆衛生学教室／教授
安田 正幸	安田クリニック／院長 (日本医師会)

2. 調査の内容

本調査では、1) 安全管理、2) 感染制御、3) 医薬品安全使用—についての取り組み状況を把握し、取り組みに係るコストを分析する。また、医療安全対策の効果を計測するための指標（クリニカルインディケータ等）については、現在、国を中心として各種の研究が進められていることから、文献数の動向を調査した。（**附録2**を参照）

本調査は、平成16年度（2004年度）における状況を対象としているが、病床数、患者数、職員数など一時点の状況については、平成16年6月30日現在の状況とした。

（1）病院の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた委員会・会合	安全管理委員会、医療ガス安全委員会、院内感染対策委員会、感染制御委員会、事故調査委員会、診療記録管理委員会、薬事委員会、輸血療法委員会、褥瘡対策委員会
	2	内部レビュー・ラウンド等の取り組み	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内部レビュー・ラウンド、症例検討会に相当する取り組み事例	マニュアル遵守の内部レビュー、感染予防のための症例検討会、化学療法や輸血・血液療法に関する検討会、抗生剤使用に関する検討会、診療録レビュー
	3	医療安全に係る院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院内研修	感染管理基礎研修、感染対策講演会、事故事例研究会、MR合同研修会、新入職員研修、医療ガス取扱教育、機器使用デモンストレーション、救急対応看護技術研修、医療機器安全講習会
	4	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	リスクマネジメント研修、感染管理講習会、感染防止セミナー、医療安全管理者養成課程講習会、褥瘡研究会、静脈注射に関する研修、新人看護師研修、除細動機講習会、
設備コスト	5	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	リストバンド、看護支援携帯端末、警報装置、転落防止器具、衝撃吸収床材、全自動錠剤分包機、オーダーエントリーシステム、X線防護衣、AED（自動体外式除細動器）
	6	感染制御に係る機器・設備等	感染を予防するための器材、機器、設備等	消毒・洗浄剤、ハンドローション、グローブ、マスク、ガウン、手洗い機器、針刺し防止用注射器、抗菌床材、陰圧隔離室、ガス滅菌機、超音波洗浄器、オートクレーブ
	7	医療機器等の管理等の取り組み	臨床工学技士の活動状況（人数、活動内容の割合等）、医療機器の安全管理に係る活動や設備利用の状況	活動：院内巡回、酸素ボンベ点検、CT・MRI点検、X線テレビ装置定期保守点検 設備：輸液ポンプ、シリンジポンプ、滅菌ラベル人工呼吸器等の解析装置
	8	医薬品等の管理等の取り組み	薬剤師の活動状況（人数、活動内容の割合）、医薬品・血液製剤の管理に係る活動や設備利用の状況	活動：特定生物由来製品または麻薬・劇薬等に係る保管・管理活動、レジメンチェック、抗生物質の使用状況調査と感染起因菌の分析、医薬品使用期限の確認、救急薬更新 設備：分包機、クリーンルーム、クリーンベンチ、血液製剤の保冷库・冷凍庫・溶解用恒温槽

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
	9	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル
その他	10	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	11	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	感染対策マニュアル、輸血マニュアル、褥瘡マニュアル、医療事故防止マニュアル、事故防止チェックリスト、廃棄物適正処理マニュアル、緊急コールマニュアル、医療機器異常時対応マニュアル、薬剤保管管理マニュアル
	12	外部評価の受審状況	受審した、医療安全・感染制御・医薬品安全使用に関連する外部評価	ISO9001、ISO14001、医療機能評価機構
	13	院内感染サーベイランス等の取り組み	院内で実施した院内感染サーベイランスと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	MRSA・緑膿菌・結核・疥癬、手術部位感染、術後創感染チェック、尿路留置カテーテル関連尿路感染、中心静脈ライン関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎
	14	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	インフルエンザワクチン、HB ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	15	賠償責任保険への加入状況	病院（診療所）、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、医師賠償責任保険（医師会・民間損保）
人員配置状況・活動状況	16	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理室長、リスクマネージャー、安全管理室員、安全管理推進室員
	17	感染制御に係る人員配置	感染管理室など、感染制御部門に所属する構成員または感染制御に関する担当者	感染管理室長、感染管理室員、リンクナース
	18	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	①患者誤認防止、医薬品等の誤認防止、調剤の確認、手術部位誤認防止、アレルギー確認、輸血払い出し確認 ②手術、輸血・血液製剤投与、造影剤使用、心臓カテーテル、内視鏡手術、点滴、採血、麻薬投与、処方薬を渡す際など
	19	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携（病病連携・病診連携・薬薬連携等）	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、訪問看護ステーションとの意見交換、転院サマリー、退院時看護サマリー、持参薬鑑定
	20	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1～19の分類に該当しないもの	警備体制の強化、配管の点検、医療用ガスボンベの点検、避難訓練、隔離待合室の設置、防犯システム導入
	21	基本情報	患者、職員、収支などの状況	病床数、患者数、処方の状況、職員数、医業収支

(2) 一般診療所の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象(取り組み・機器)の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合、内部レビュー・ラウンド等の取り組み、院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた、委員会・会合、内部レビュー・ラウンド、症例検討会、院内研修	安全管理委員会、医療事故調査委員会、感染制御委員会、初任時研修、新人の看護師研修、診療所会議、内部レビュー・ラウンド
	2	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	医療安全講習会、医療事故防止研修会、感染管理セミナー、公衆衛生委員会、転倒防止対策研修会
設備コスト	3	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	警報装置、転落防止器具、衝撃吸収床材、浄水器、X線室防護壁
	4	感染制御に係る機器・設備等	感染を予防するための器材、機器、設備等	オートクレーブ、空気清浄機、ガウン、グローブ、ディスプレイサブル注射器、ハンドローション、消毒・洗浄剤、マスク、乾熱滅菌器、手洗い機器、超音波洗浄器、滅菌灯
	5	医療機器等、医薬品等の管理等の取り組み	臨床工学技士・薬剤師の活動状況(人数、活動内容の割合等)、医療機器・医薬品・血液製剤の安全管理に係る活動や設備利用の状況	①技士活動：院内巡回、酸素ボンベ点検、CT・MRI点検 ②医療機器管理設備：輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器等の解析装置、被ばく線量バッジ ③薬剤師活動：特定生物由来製品または麻薬・劇薬等に係る保管・管理活動、医薬品使用期限の確認、救急薬更新 ④医薬品管理設備：血液製剤・ワクチン用の保冷库・冷凍庫、麻薬管理台帳、麻酔カート
その他	6	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル、注射針廃棄ボックス
	7	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	8	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	感染対策マニュアル、針刺し事故対策マニュアル、廃棄物適正処理マニュアル、品質マニュアル、緊急コールマニュアル、食中毒予防マニュアル
	9	外部評価の受審状況	受審した、医療安全・感染制御・医薬品安全使用関連する外部評価	ISO9001
	10	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	インフルエンザワクチン、HBワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
人員配置状況・活動状況	11	賠償責任保険への加入状況	病院(診療所)、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、医師賠償責任保険(医師会・民間損保)
	12	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理室長、リスクマネージャー、安全管理室員、安全管理推進室員
	13	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	①患者誤認防止、医薬品等の誤認防止、調剤の確認、手術部位誤認防止、入浴前後の状態確認、 ②手術、輸血・血液製剤投与、造影剤使用、心臓カテーテル、内視鏡手術、点滴、採血、麻薬投与、処方薬を渡す際
	14	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携(病病連携・病診連携・薬薬連携等)	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、主治医との意見交換、地域ケア会議、通所リハビリテーション連絡
	15	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1~14の分類に該当しないもの	警備体制の強化、配管の点検、医療用ガスボンベの点検、入院時の院内案内、防犯システム導入、細菌定点検査
	16	基本情報	患者、職員、収支などの状況	病床数、患者数、処方の状況、職員数、医業収支

(3) 歯科診療所の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象とする内容	対象（取り組み・機器）の例
人的投資コスト	1	医療安全に係る委員会・会合の取り組み状況、院内研修	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る内容を取り上げた、 ①委員会・会合 ②症例検討会、院内研修	① 安全管理委員会、医療事故調査委員会、感染防止対策委員会 ② 医療事故事例研修、感染防止対策研修、症例検討会、マニュアル遵守の確認、診療録・歯科衛生士業務記録等の記載を確認
	2	医療安全に係る院外研修・活動	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係るテーマを取り扱った院外研修・活動	安全管理研修会、院内感染研修会、H I V 歯科医療研修会、救命・救急医療講習会、医療安全推進者養成口座
設備コスト	3	安全管理に係る機器・設備等	安全管理への貢献が期待できる器材、機器、設備等	警報装置、階段すべり止め、転落防止器具、衝撃吸収床材、X線室防護壁、X線防護衣、血圧計、酸素ボンベ、粉塵バキューム、AED（自動体外式除細動器）
	4	感染制御に係る機器・設備等	感染防止対策のための器材、機器、設備等	消毒・洗浄剤、ハンドローション、グローブ、マスク、ゴーグル、ガウン、乾熱滅菌器、超音波洗浄器、抗菌床材、滅菌灯、高圧蒸気滅菌器（オートクレーブ）、強酸性水精製器、空気清浄機、手洗い機器、ディスプレイ注射器
	5	医療機器等、医薬品等の管理等の取り組み	医療機器・医薬品・血液製剤の安全管理に係る活動や設備利用の状況	① 活動：酸素ボンベの点検、救急薬の点検、医薬品の区分保管・使用期限の点検、X線の線量測定 ② 医療機器・医薬品管理設備：薬品保冷库、麻酔カート
	6	廃棄物処理・保管に係る取り組み	感染性廃棄物および産業廃棄物の、処理・保管に係る取り組み状況	廃棄物保管に要するその他材料の例：ハザードマークシート、非感染性廃棄物ラベル
その他	7	インシデントレポート作成・分析	院内で作成・分析したインシデントレポートと、それに要したコンピュータ、ソフトウェアなど	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案、報告書作成、
	8	医療安全に係るマニュアル・手順書	安全管理、感染制御、医薬品安全使用に係る院内共通マニュアル・手順書	医療事故対策マニュアル、感染防止対策マニュアル、廃棄物適正処理マニュアル、針刺し事故対策マニュアル、消毒・滅菌マニュアル
	9	外部評価の受審状況	受審した医療安全・感染制御・医薬品安全使用に関連する外部評価	ISO9001
	10	職業感染防止対策の取り組み	職業感染防止のための対策	各種ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	11	賠償責任保険への加入状況	病院（診療所）、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	医療業務賠償責任保険、歯科医師賠償責任保険（医師会・民間損保）、個人情報漏洩保険
人員配置状況・活動状況	12	安全管理に係る人員配置	安全管理室など、安全管理部門に所属する構成員または安全管理に関する担当者	ジェネラルリスクマネージャー、安全管理係、安全管理委員
	13	安全管理に係る確認作業等に要する活動状況	①医療者間、医療者・患者間の確認作業 ②診療行為前の説明と同意を得る活動	① 患者誤認防止、問診票による有病者・アレルギーの確認、医薬品等の誤認防止、手術部位誤認防止、医薬品調剤チェック ② 自己決定のための説明、注意事項の説明
	14	医療安全に係る機能連携	安全管理・医薬品安全使用に係る機能連携（病病連携・病診連携・薬薬連携等）	当該患者について必要な診療情報を文書などにより相互に共有化する、医科主治医との意見交換、医薬品についての情報確認、二次・三次医療機関との連携
	15	医療安全に係るその他の活動	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、調査票項目1～14の分類に該当しないもの	患者相談窓口の設置、警備体制の強化、配管の点検、水質検査、防犯システム導入、細菌定点検査
	16	基本情報	患者、職員、収支などの状況	患者数、ユニット数、処方の状況、職員数、医業収支、標榜する診療科目、歯科口腔外科の実施状況 等

(4) 保険薬局の書面調査項目

分類	連番	調査項目	対象	対象 (取り組み・機器) の例
人的投資コスト	1	安全管理に係る会議などの開催状況	安全管理に係る内容を取り上げた会議・委員会・打ち合わせ	安全対策を検討、決定する安全管理会議、事故調査委員会、安全管理についての定例会議
	2	安全管理に係る研修の取り組み状況	2004年度に職員が参加した、安全管理に係る全ての教育・研修	薬学大会、調剤薬局勉強会、保険薬局セミナー、薬剤安全管理室定例会議、調剤過誤防止委員会、医療安全管理者養成課程講習会
設備コスト	3	調剤業務における安全対策の実施状況	①調剤後鑑査の実施状況 ②散・水剤に関し、調剤ミス防止のため実施している対策 ③調剤に関する事故防止用に導入した機器	②分包誤差の確認、秤量メモとの突合、小児薬用量チェック ③散・水剤、各種薬剤(錠剤、注射薬、外用薬等)の調剤ミス防止に資するIT機器、患者の禁忌薬剤や過量処方等を確認するIT機器、自動分包機
	4	医薬品等の安全管理の取り組み状況	①規制医薬品の事故防止のための取り組み状況 ②受発注・納品時の取り間違え防止のための機器等	①安全管理が必要な薬剤のリスト化、区分保管、装置瓶や調剤棚への用法・用量記載、注意掲示
	5	副作用防止に関する取り組み状況	①安全性情報を収集・管理する体制 ②薬剤から患者を特定できる体制	①インターネット環境の整備 ②迅速な患者特定用のIT機器
	6	感染制御および無菌製剤に係る取り組み状況	①感染防止対策への取り組み ②クリーンベンチの整備状況 ③無菌製剤処理に係る物品	①使用済み注射針回収する旨の患者広報、感染性廃棄物の分別保管 ③グローブ、マスク、ゴーグル
その他	7	インシデントレポート取り組み状況	2004年度のインシデントレポート	データベース入力・集計、リスクマネージャーによる通読、根本原因分析図表化、対策立案
	8	マニュアルなどの作成状況	調剤業務全般に関して作成した、マニュアル・手順書・申し合わせ事項	事故防止マニュアル、小児薬用量リスト、薬剤保管管理マニュアル、院内採用医薬品集、
	9	外部評価の受審状況	新規で受審または更新した、外部評価	ISO9001、BS7799等による認定・監査
	10	職業感染防止対策の取り組み状況	職業感染防止のための対策	各種ワクチン、抗体検査、ツベルクリン反応
	11	賠償責任保険への加入状況	薬局、または従事者個人が被保険者となっている賠償責任保険	薬剤師賠償責任保険
人員配置状況・活動状況	12	安全管理に係る人員配置状況	管理薬剤師および安全管理に係る責任者、担当者	管理薬剤師、安全管理責任者、リスクマネージャー、安全管理担当者、安全管理推進者
	13	服薬に関する安全管理の取り組み状況	①機能連携(疑義紹介含む)の取り組み ②事故防止に向けた患者対応 ③服薬管理が必要な薬剤についての指導 ④在宅自己注射に係る安全対策	①医療機関への疑義照会 ②緊急時の電話対応、持参薬鑑定、処方内容確認 ③薬歴等を用いた管理指導 ④用法・用量等の服薬指導、保管管理
	14	安全に係るその他の活動の取り組み状況	安全管理や感染制御、医薬品安全使用のための諸活動のうち、項目1~13の分類に該当しないもの	警備体制の強化、医療用ガスボンベの点検、クリーンシステムの導入、錠剤計数監査システムの研究開発
	15	基本情報	処方、職員、収支などの状況	処方せん枚数、受付回数、職員数、営業収支

(5) 全施設種類共通のヒアリング調査項目

- (1) 大病院と共通すると思われる取り組みについて
- (2) 取り組みの特徴について
- (3) 新しい取り組みについて
- (4) 取り組みにおける課題について
- (5) 費用負担が大きい取り組みについて
- (6) 取り組み内容や取り巻く環境の変化と傾向について

3. 調査結果の概要

医療安全に関するコスト調査の調査対象施設数を以下に示す。

	病院 (300床未満)	一般診療所 (有床)	一般診療所 (無床)	歯科診療所	保険薬局
書面調査	6件	4件	6件	7件	10件
(うち)ヒアリング調査 を行った施設	4件	3件	5件	3件	5件
ヒアリング調査のみ	1件	3件	0件	2件	0件

3.1. 書面調査の方法

書面調査シート（紙媒体）を調査対象施設へ送付し、施設の管理者等が記入する自計方式により実施した。平成16年度（2004年度）の1年間における状況を対象としたが、病床数、患者数のような一時点の状況については、平成16年6月30日現在の状況とした。

なお、コスト以外の医療安全に関する取り組みの特徴や傾向、課題などについてはヒアリングによる調査を行った。（参照：第3.3節）

<コスト算出方法>

- ・ コストは、人件費と物件費とに分類して示している。
- ・ 人件費は、職種別の人員投入量〔人時〕に職種別の単価〔円／人時〕を乗じて算出している。職種別の単価は、国家公務員の給与水準を基に算出した。
- ・ 物件費は、年間の維持・運用費用に、平成16年度に使用していた機器・設備等（IT機器は含まない）の減価償却費を加えて算出している。
- ・ IT機器や外部評価に関しては、費用負担が大きく、現在は施設によって導入状況に格差がある上、医療安全への貢献度の把握が難しいため、今回の調査ではそのコストは別掲とした。また、医療安全等に関するマニュアルの作成では、作成・更新が繰り返されており、年間費用としての把握が困難であったので別掲とした。

3.2. 書面調査結果の概要

- 医業収入（または営業収入）に対する年間費用の割合は、病院で平均 1.8%、一般診療所（有床）で平均 0.8%、一般診療所（無床）で平均 1.2%、歯科診療所で平均 4.0%、保険薬局で平均 0.8% となった。ただし、年間費用には外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは含まれていない。
- 書面調査の結果、保険薬局を除くいずれの施設においても感染制御に係る機器・設備等のコストが最も多くなっていた。具体的には、オートクレーブ、内視鏡洗浄装置、超音波洗浄器などの購入費用が大きいほか、消毒・洗浄剤、グローブ、マスクなどの消耗品又はディスプレイ用品が単価は小さいが量が多いためコストが積み上がっている。
- 医療安全に係るコストとして人件費に計上される取り組みの中で、費用負担が大きかったのは、委員会・会合・院内研修や院外研修であった。
- 廃棄物処理・保管のコストは、保険薬局を除くいずれの施設でも上位の費用項目としてあがり、特に病院での廃棄物処理コストが大きくなっている。
- 別掲とした外部評価、IT 機器のコストについて、外部評価を受審するために必要となる人件費が大きいこと、また、IT 機器は導入費用が大きく、保険薬局において調剤鑑査システム、電子薬歴システムなどの費用負担が大きいことがわかった。

(1) 病院の結果概要

病院では 6 施設をコストの分析対象とした。医療安全に関する年間費用の合計を対医業収入比で見ると、6 施設平均で 1.8%であった。項目別にみると「感染制御に係る機器設備等」が 0.5%、「廃棄物処理・保管」が 0.3%、「委員会・会合」が 0.2%と高く、3 項目で費用合計の半分以上を占めている。

この他、本調査における年間費用には含まないが医療安全活動と密接に係るコストとして、外部評価 1.3%（新規受審）、マニュアル作成 0.2%、IT 機器 1.1%（購入費、リース料計）となっていた。外部評価及びマニュアル作成については更新費用も把握した。

項目名		医業収入割合(平均)		
		①人件費 [%]	②物件費 [%]	①+② [%]
人的投資	委員会・会合	0.2	.	0.2
	内部レビュー・ラウンド等	0.1	.	0.1
	院内研修	0.1	0.0	0.1
	院外研修・活動	0.1	0.0	0.1
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	0.1	0.1
	感染制御に係る機器・設備等	.	0.5	0.5
	医療機器等の管理等	0.0	0.1	0.1
	医薬品等の管理等	0.0	0.1	0.1
	廃棄物処理・保管	.	0.3	0.3
その他	インシデント／アクシデントレポート	0.1	0.0	0.1
	院内感染サーベイランス	0.0	0.0	0.0
	職業感染防止対策	.	0.0	0.0
	賠償責任保険	.	0.1	0.1
合計		0.6	1.2	1.8

【別掲： 医業収入割合(平均)】 ※外部評価、マニュアル作成、IT機器の費用は年間費用に含まれていない

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	1.3	0.2	0.1	0.0	.	.
物件費	0.0	0.1	0.1	0.0	0.9	0.2
合計	1.3	0.3	0.2	0.0	0.9	0.2

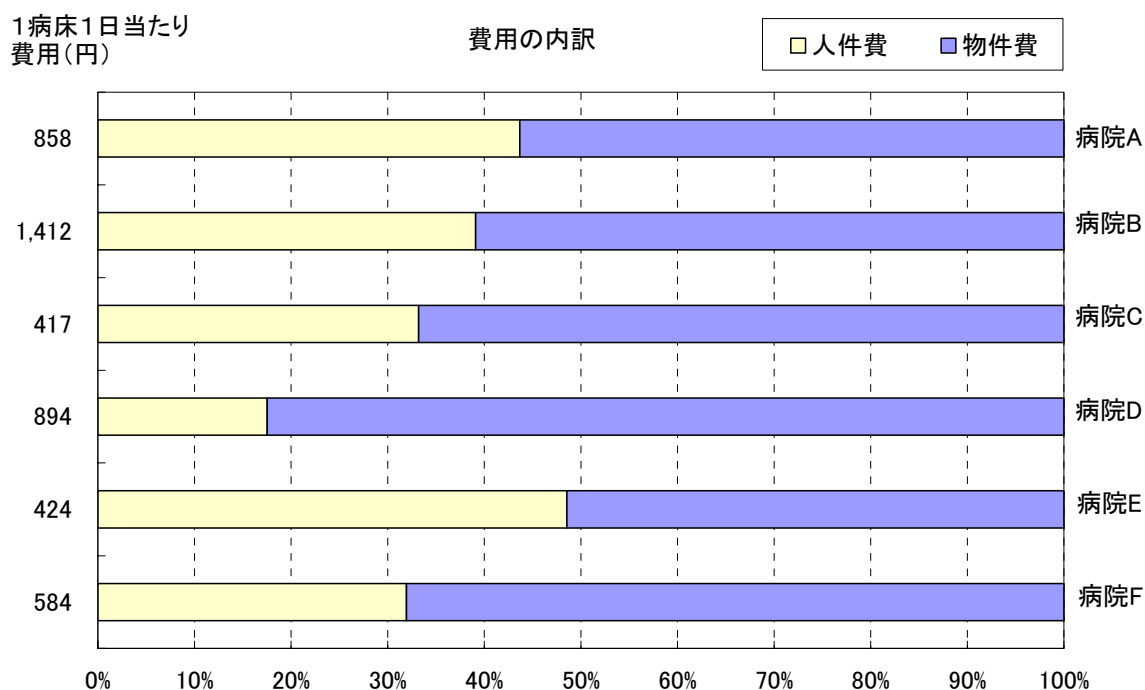
医療安全に関する年間費用を1床1日当たり金額で見ると6施設平均で765円、うち人件費の割合は35.2%であった。施設別にみると1床1日当たり417~1,412円、人件費の割合は17.5~48.5%の開きがある。

1床1日当たり金額が最も高い病院Bでは「感染制御のための機器設備」の割合が最も高く、総費用の3割以上を占めている。その主なものはガウン、グローブ、外皮用殺菌消毒剤、オートクレーブであり、物件費の高さに影響を及ぼしている。また、リスクマネージャーとして専任の1人に加え、兼任を9人配置している。研修の種類や参加者が多いことや、臨床工学技士が3名配置され毎日機器の点検作業が行われていることが人件費の高さに影響を及ぼしている。

次に金額が高い病院Dについては、「医療機器等の管理」の割合が最も高くなっている。病院B同様、臨床工学技士を配置し、定期的な点検を行っていることに加え、医療機器保守料(MRI,CT,RI)の高さが年間費用に反映されている。なお、病院B、Dとも薬剤師による注射剤の調製が行われており、病院Bでは各病棟に薬剤師を配置している。医療安全への貢献を期待して、このような人員配置にしていると考えられる。

人件費の割合が最も高い病院Eは、インシデントレポートの作成件数が比較的多く、定期的な分析が実施されている。

1床1日当たり金額が最も低い病院Eも含め、安全管理委員会、感染制御委員会、薬事委員会が設置されていた。この他、リストバンドや消毒薬の導入、アクシデント・インシデントレポートの作成・分析、廃棄物の処理委託は全施設に共通してみられた取り組みであった。



(2) 一般診療所（有床）の結果概要

一般診療所（有床）では4施設をコストの分析対象とした。医療安全に関する年間費用合計を対医業収入比で見ると、4施設平均で0.8%であった。項目別にみると「委員会・会合・院内研修等」が0.3%、「感染制御に係る機器設備等」が0.2%と高く、2項目で費用合計の半分以上を占めている。

この他、本調査における年間費用には含まないが医療安全活動と密接に係るコストとして、外部評価、マニュアル作成、IT機器（購入費、リース料計）があるが、一般診療所（有床）では、外部評価、IT機器は計上されておらず、マニュアル作成のためのコストが若干認められた。

項目名		医療収入割合(平均)		
		①人件費 [%]	②物件費 [%]	①+② [%]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	0.3	.	0.3
	院外研修・活動	0.1	0.0	0.1
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	0.1	0.1
	感染制御に係る機器・設備等	.	0.2	0.2
	医療機器等の管理等	-	-	-
	医薬品等の管理等	0.0	0.0	0.0
	廃棄物処理・保管	.	0.1	0.1
その他	インシデント／アクシデントレポート	0.0	0.0	0.0
	職業感染防止対策	.	0.0	0.0
	賠償責任保険	.	0.0	0.0
合計		0.4	0.4	0.8

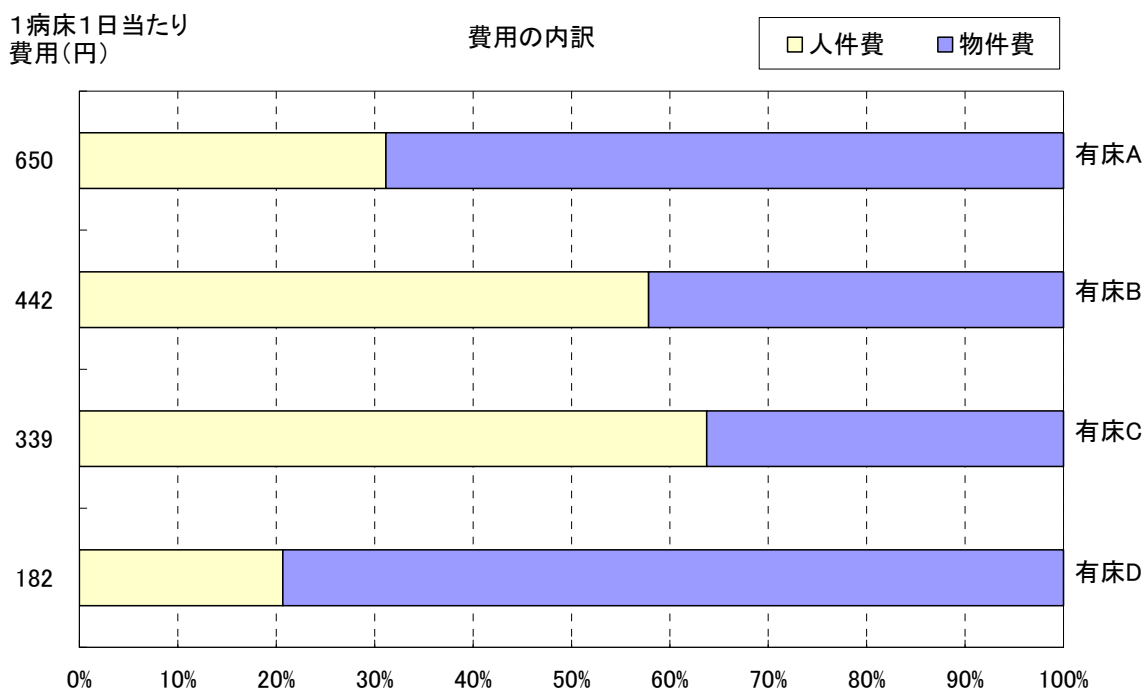
【別掲：医業収入割合(平均)】 ※外部評価、マニュアル作成、IT機器の費用は年間費用に含まれていない

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	0.0	0.0	.	.
物件費	-	-	0.0	0.0	-	-
合計	-	-	0.0	0.0	-	-

医療安全に関する年間費用を1病床1日当たりで見ると4施設平均で403円、人件費の割合は44.1%であった。施設別にみると182～650円、人件費の割合は20.7～63.7%の開きがある。

1病床1日当たり費用が最も高い一般診療所（有床）Aは看護支援携帯端末や警報装置、テレビ監視装置等高額の機器を導入、さらには感染制御のためにディスプレイなどを多く使用していることからコストが大きくなっている。人件費比率が半数を超えている一般診療所（有床）B、Cのうち、Bについては、医療安全に関する委員会等の取り組みが盛んであり、研修への参加やマニュアルの作成にも多くの時間がかけられていた。また、一般診療所（有床）Cは、安全管理委員会、感染制御委員会等を別個に設けており、それぞれ月1時間程度の時間を割いている。一般診療所（有床）Dでは、物件費の占める割合が高くなっているが、感染制御に係る消耗品費の寄与が大きかった。また、各種マニュアル等が作成されているが、今回は含まれていないために、1病床1日当たりの費用は少なくなっている。

有床の一般診療所ではいずれの施設でも安全管理に係る委員会・会合、感染制御に係る委員会・会合が開催されており、インシデントレポートの作成、分析にも取り組んでいる。



(3) 一般診療所（無床）の結果概要

一般診療所（無床）では 6 施設をコストの分析対象とした。医療安全に関する年間費用合計を対医業収入比で見ると、6 施設平均で 1.2%であった。項目別にみると「感染制御に係る機器設備等」が 0.4%、「院外研修・活動」が 0.2%、「廃棄物処理・保管」が 0.2%と高く、3 項目で費用合計の半分以上を占めている。

この他、本調査における年間費用には含まないが医療安全活動と密接に係るコストとして、外部評価、マニュアル作成、IT 機器（購入費、リース料計）がある。一般診療所（無床）では、外部評価を受審しているのは 1 施設のみであるが、受審費用は 6 施設で平均化すると対医業収入費で 0.8%、IT 機器は 0.1%となっている。なお、マニュアル作成のためのコストはごくわずかとなっている。

項目名		医療収入割合(平均)		
		①人件費 [%]	②物件費 [%]	①+② [%]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	0.1	.	0.1
	院外研修・活動	0.1	0.0	0.2
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	0.0	0.0
	感染制御に係る機器・設備等	.	0.4	0.4
	医療機器等の管理等	-	0.1	0.1
	医薬品等の管理等	0.0	0.0	0.0
	廃棄物処理・保管	.	0.2	0.2
その他	インシデント／アクシデントレポート	0.0	0.0	0.0
	職業感染防止対策	.	0.1	0.1
	賠償責任保険	.	0.1	0.1
合計		0.2	0.9	1.2

【別掲： 医業収入割合(平均)】 ※外部評価、マニュアル作成、IT機器の費用は年間費用に含まれていない

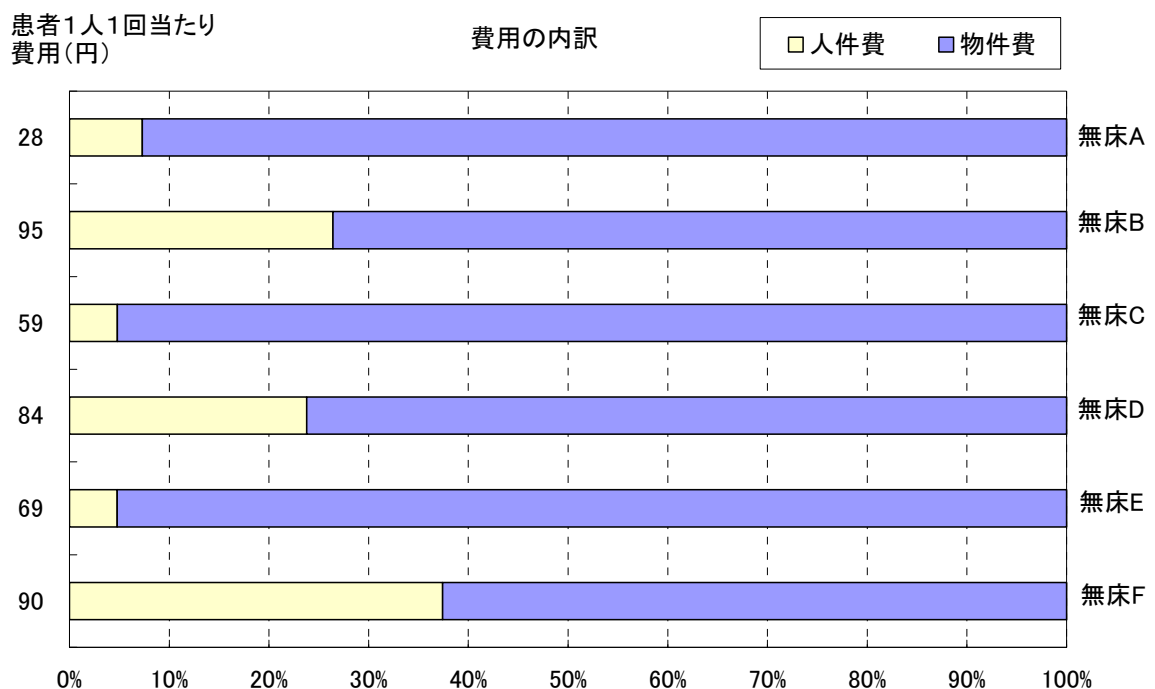
	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	0.0	0.0	0.0	0.0	.	.
物件費	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
合計	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

医療安全に関する年間費用を患者1人1回当たりで見ると6施設平均で71円、人件費の割合は20.4%であった。施設別にみると28～95円、人件費の割合は4.8～37.4%となっているが、費用の開きは他の施設種類に比べて小さくなっている。

患者1人1回当たり費用が最も高い一般診療所（無床）Bは内視鏡洗浄装置を導入しており、その費用が占めるウエイトが高くなっている。次に患者1人1回当たり費用が大きい一般診療所（無床）Fにおいては、ホームページを開設し、医療安全の大切さを訴える取り組みを行っていることから、若干人件費の割合が他の施設よりも高くなっている。物件費の割合が最も高い一般診療所（無床）Fでは内視鏡が使われており、そのための洗浄装置に関連するコストが大きくなっている。

無床の一般診療所は規模も小さく、職員同士が常に顔を合わせている状態であることから、医療安全に関する委員会・会合として特に会議体を設けていることはまれで、安全管理や感染制御に関する内容を各種打合せの際に一緒に取り扱っていることが多い。

また、安全管理、感染制御に関する機器設備等は、診療科によりその内容が異なっている。社会の高齢化に伴い高齢者が増加している整形外科等では、バリアフリーのための取り組みがなされていた。一方、小児科では隔離待合室が設けられていた。



(4) 歯科診療所の結果概要

歯科診療所では 7 施設をコストの分析対象とした。医療安全に関する年間費用を対医業収入比で見ると、7 施設平均で 4.0%であった。項目別にみると「感染制御に係る機器設備等」が 2.1%で突出して高く、費用合計の半分以上を占めている。他には、「委員会・会合・院内研修等」(0.7%)、「安全管理に係る機器・設備等」(0.4%)、「医療機器等の管理等」(0.3%)などが高くなっている。

この他、本調査における年間費用には含まないが医療安全活動と密接に関係するコストとして、外部評価、マニュアル作成、IT 機器（購入費、リース料計）をみたが、マニュアル作成費用は 0.1%であり、IT 機器に係るコストはほとんど把握されなかった。外部評価については ISO9001 を受審したところが 1 施設あり、平均化すると 0.3%となっている。

項目名		医療収入割合(平均)		
		①人件費 [%]	②物件費 [%]	①+② [%]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	0.7	.	0.7
	院外研修・活動	0.2	0.1	0.2
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	0.4	0.4
	感染制御に係る機器・設備等	.	2.1	2.1
	医療機器等の管理等	0.2	0.1	0.3
	医薬品等の管理等	0.1	0.0	0.1
	廃棄物処理・保管	.	0.1	0.1
その他	インシデント／アクシデントレポート	0.0	-	0.0
	職業感染防止対策	.	0.1	0.1
	賠償責任保険	.	0.0	0.0
合計		1.1	2.8	4.0

【別掲： 医業収入割合(平均)】 ※外部評価、マニュアル作成、IT機器の費用は年間費用に含まれていない

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	0.0	0.0	0.1	0.0	.	.
物件費	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-
合計	0.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-

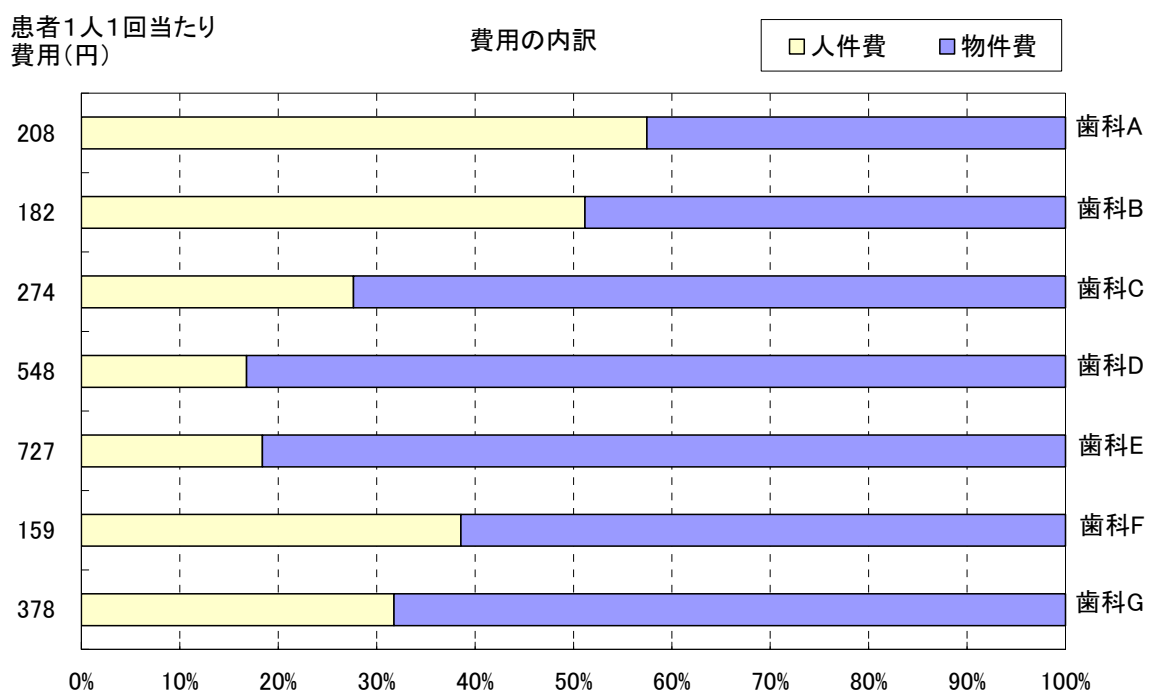
医療安全に関する年間費用を患者1人1回当たりでみると7施設平均で350円、人件費の割合は27.4%であった。施設別にみると、159～727円の開きがある。人件費の割合は16.8～57.5%であった。

患者1人1回当たり費用が最も高い歯科診療所Eは、患者ごとにバリアフィルム貼付やベッドカバー交換を行い、歯科医師及び歯科衛生士が感染症対策講習会やHIV 歯科診療に関する研究会に参加している。

人件費の割合が最も高い歯科診療所Aは歯科医師数16～20人と比較的大規模であるが、安全管理の責任者及び担当者を任命し、安全管理部門定例会議を開催するほか、医薬品及び感染制御に関する診療所会議を月1回の頻度で開催している。同じく人件費割合が高い歯科診療所Bも、安全管理の責任者及び担当者を任命しており、安全管理委員会、感染防止対策委員会、医療事故調査委員会を開催している。

物件費が高い歯科診療所Dは、超音波洗浄器を5台使用し、乾熱滅菌器のほか、アルコール滅菌器、ホルマリンガス殺菌器を導入しており、医療機器の安全管理に関する取り組みとして滅菌器の作動確認、治療用ミラーの全交換などが実施されている。

なお、安全管理又は感染制御に係る機器・設備として、X線室防護壁、血圧計、救急薬セット、エアウェイ、酸素ボンベ・吸入マスク、滅菌器が全施設で導入されていた。



(5) 保険薬局の結果概要

保険薬局では10施設をコストの分析対象とした。医療安全に関する年間費用を対医業収入比で見ると、10施設平均で0.8%であった。項目別にみると「委員会・会合・打ち合わせ等」、「安全管理に係る研修」、「医薬品等の安全管理」が共に0.2%と高くなっている。

この他、本調査における年間費用には含まないが医療安全活動と密接に関係するコストとして、外部評価、マニュアル作成、IT機器（購入費、リース料計）をみたが、IT機器に係るコストが購入費1.7%、リース料0.5%と高くなっている。IT機器については、調剤鑑査システム、電子薬歴データベース、受発注システムなどのシステムを導入している。外部評価は普及段階であると思われる。調剤業務マニュアルは全ての施設で整備されているが、マニュアル作成費用は他の取り組みと比較して大きいとはいえない。

項目名		営業収入割合(平均)		
		①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・打ち合わせ等	0.2	.	0.2
	安全管理に係る研修	0.1	0.1	0.2
設備	調剤業務に関する機器・設備等	.	0.1	0.1
	医薬品等の安全管理	0.2	0.0	0.2
	副作用防止に関する機器・設備等	.	0.0	0.0
	感染制御及び無菌製剤	.	0.1	0.1
その他	インシデント／アクシデントレポート	0.0	-	0.0
	職業感染防止対策	.	0.0	0.0
	賠償責任保険	.	0.0	0.0
合計		0.5	0.3	0.8

【別掲： 医業収入割合(平均)】 ※外部評価、マニュアル作成、IT機器の費用は年間費用に含まれていない

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	0.0	0.0	.	.
物件費	-	-	0.0	0.0	1.7	0.5
合計	-	-	0.0	0.0	1.7	0.5

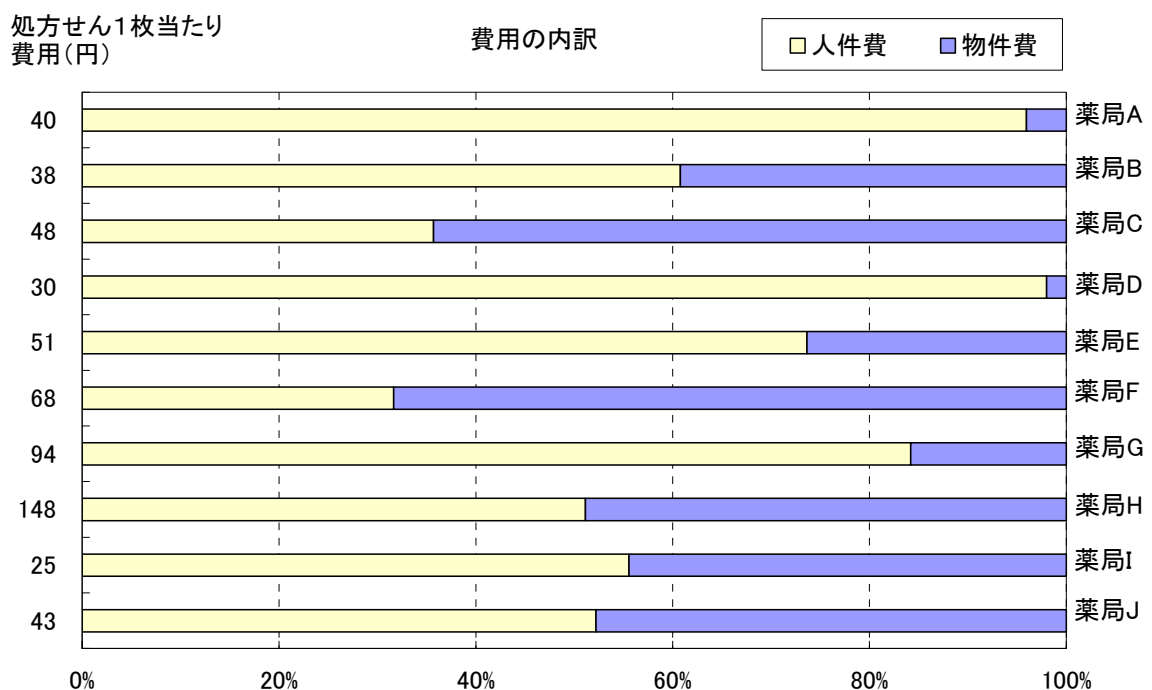
医療安全に関する年間費用を施設別に処方せん1枚当たりで見ると、10施設平均で58円、人件費の割合は61.3%であった。施設別にみると、25～148円の開きがある。人件費の割合は31.6～98.0%であった。

処方せん1枚当たり費用が最も高い保険薬局Hは、調剤後鑑査における鑑査システムを導入しており、鑑査システムの記録と処方せん内容を突合して確認している。さらに目視により異物混入検査を行っている。次いで処方せん1枚当たり費用が高い保険薬局Gは、薬局内でおきたヒヤリ・ハット事例の報告を毎日行っており、インシデントレポートマニュアル、薬品情報カード、PHRM-2E（個別調剤事故分析ツール）作成マニュアルを整備している。

人件費の割合が最も高い保険薬局Dは、安全対策委員会を設置し、インシデントレポート及びアクシデントレポートの作成を行っており、全職員の参画のもと、ヒヤリ・ハットごとに反省会を開いている。同じく人件費割合が高い保険薬局Aは、外部の研修会に積極的に参加しており、インシデントレポートを作成し、分析・再発防止策の検討を行っている。

物件費が高い保険薬局Fは、感染制御のためのクリーンベンチを保有している。同じく物件費が高い保険薬局Cは、自動分包機を導入し、鑑査システムで分包の重量偏差を測定している。

なお鑑査機器、受発注に用いる機器の導入は全施設で行われており、薬歴管理システムは10施設のうち7施設で導入されている。



3.3. ヒアリング調査結果の概要

費用負担が大きい取り組みとして、病院で「IT化、医療機器のメンテナンス」、有床の一般診療所で「転落防止・バリアフリー化等の施設改善」、無床の一般診療所で「廃棄物処理などのコスト」、歯科診療所で「感染対策のための滅菌消毒や前準備に係る人件費」、保険薬局で「薬剤師の資質向上のための学会、研修派遣費用」、「IT化推進」などがあがった。

○病院では、事故が起こった場合の根本原因やその発生のしくみなどについて分析し、それを改善方策の検討に生かす取り組みを具体的に始めている施設があったが、人的な負担が大きいようである。

○一般診療所では、診療科目ごとに安全管理、感染制御に関する施設設備の状況に差がみられた。整形外科等高齢者が多い施設では、転倒防止やバリアフリー化への改善が必要となり、小児科等では感染防止のために隔離待合室を用意する等の取り組みが見られた。

○歯科診療所においては、口腔を扱う特性のために、特に感染対策のための滅菌消毒や前準備に係るコスト負担が大きい傾向が見受けられた。

○保険薬局におけるヒューマンエラー防止システムは、導入後にミスが激減するなど明確な効果があると考えられるが、システム導入のコスト負担は大きい。

3.4. 調査結果の考察と今後の課題

○今回の調査は、医療安全に係るコストを把握するための調査手法の開発を意図したものである。調査対象施設は先進的な取り組みを行っている医療機関等であり、対象施設数が限られているため、この結果は全国の傾向を代表するものではない。また、把握したコストについても調査で規定した内容に限られていることに留意する必要がある。今後、医療安全に関するコストについて政策に活用できるデータを得るためには、本調査結果を基礎として、さらなる調査を実施することが望まれる。

○全般的に、医療安全に係る取り組み内容は、医療機関等の特性などによって異なる傾向がうかがえた。例えば、施設の種類や規模、扱う診療科目、外科的処置の実施の有無、院外処方の実施状況などにより取り組みが異なる傾向があり、それがコストに反映されていると考えられる。

○このため、調査対象を決める際に、医療機関等の特性などを勘案して区分する必要がある、調査対象の区分、並びに各区分における標本数の規模について今後検討する必要があると考えられる。

<今後の課題>

○調査対象の項目や範囲の検討

医療安全に関するコストについては、対象とする取り組み（各種確認作業や患者等に対する説明と同意などの活動や必要とされる物品等）の項目や範囲を明確にすることが難しい。そのため、今回の調査においては、取り組み内容を具体的に回答してもらう等、詳細な調査が必要になった。また、一部の取り組みについては、実施の有無を把握するのみでコストの把握に至らないものがあった。調査対象の項目や範囲についてはさらなる検討が必要と考えられる。

○IT 機器や外部評価等に関するコストの把握

IT 機器や外部評価に関しては、費用負担が大きく、現在は施設によって導入状況に格差があり、特に、IT 機器については医療安全に係るコストの把握が難しいため、今回の調査ではそのコストは別掲とした。また、医療安全等に関するマニュアル作成等のコストについても、作成・更新を繰り返しているため年間費用としての把握が困難であった。これらの取り組みの医療安全に係るコストをどのように算出するかについて今後検討する必要がある。

○人的コストの算出方法

今回の調査では、人的コストについて国家公務員の給与単価を適用したが、民間医療施設等における給与水準は異なると考えられることから、より適切な人件費の把握方法の検討が必要になると考えられる。

○規模の違いとコストとの関連

今回の調査では、規模による違いを調整するためにコストの医業収入割合を算出し、施設の種類ごとに平均値を求めた。また、病院と有床診療所では1病床1日当たりの費用、無床診療所と歯科診療所では患者1人1回当たりの費用、保険薬局では処方せん1枚当たりの費用を算出したが、例えば、病院では、外来の規模、外科的処置の規模、院外処方の実施規模などによりコストが異なってくることに留意する必要がある。

○効果計測の手法

医療安全に係るコストの把握については、取り組みに対する効果の把握と評価が必要となるが、効果計測の手法は確立されていない。医療安全対策に資する効果計測手法（クリニカルインディケーター等）は、国を中心として各種の研究が進められており、今後の研究成果が待たれるところである。今回の調査では、取り組みによる効果を把握することができなかったが、それを測定する指標についても今後検討していくことが求められる。

4. 書面調査の結果

第 4.1 節に取り組み状況の一覧を、第 4.2 節に施設ごとの調査結果を示す。

4.1. 取り組み状況の一覧

医療安全に関する取り組みの具体例をあげ、各調査対象の取り組み状況を一覧に整理した。

なお、ここで挙げる取り組み状況は、書面調査の中で各施設から「取り組んでいる」との情報を得たものに限るものである。(したがって、書面調査への回答はなかったが取り組んでいる場合もありうる。) また、取り組んでいるとの回答があってもコストが不詳の場合には、表中に○を付けているが、後掲のコストには計上されていない。

(1) 病院 (300 床未満) の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	病院 (300 床未満)					
		A	B	C	D	E	F
1 委員会・会合	安全管理委員会	○	○	○	○	○	○
	感染制御委員会	○	○	○	○	○	○
	事故調査委員会	—	○	○	○	—	—
	薬事委員会	○	○	○	○	○	○
	その他の委員会	○	○	○	○	○	—
2 内部レビュー	院内視察・査察	—	—	—	—	○	○
	マニュアル遵守	○	○	○	○	—	—
	診療録レビュー	—	—	—	○	—	—
	各種検討会 (化学療法、輸血、抗生剤)	○	○	○	○	—	—
3 院内研修	安全管理研修	—	○	○	○	○	○
	感染制御研修	—	○	○	○	○	○
	救急救命研修	—	○	—	○	○	—
	新人看護職研修	—	○	—	○	—	—
4 院外研修	安全管理研修	○	○	○	○	○	○
	感染制御研修	○	○	○	○	○	○
	救命・除細動機講習	—	○	—	○	—	—
5 安全管理機器・設備	リストバンド	○	○	—	○	○	○
	転倒防止器具	○	○	○	—	○	○
	警報装置	—	○	○	—	—	○
	看護支援携帯端末	—	○	○	—	—	—
	オートゲートリシステム	—	○	—	○	—	—
	AED	—	○	—	—	—	—
6 感染制御機器・設備	消毒・洗浄剤	○	○	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○
	抗菌カテーテル	○	—	○	—	—	—
	針刺防止器具	○	○	—	—	—	○
	オートクレーブ	○	○	○	○	○	—
	空気洗浄器	—	—	○	—	○	—
	手洗い機器	○	○	○	○	○	—
	陰圧隔離室	—	—	—	—	—	—

調査項目	取り組み内容	病院（300床未満）						
		A	B	C	D	E	F	
7	医療機器の管理	臨床工学技士配置	—	○	—	○	—	
		ME 機器定期点検	—	○	—	○	○	○
8	医薬品の管理	薬剤師の服薬指導	○	○	○	○	○	○
		薬剤師の注射剤調製	—	○	—	○	○	—
		クリーンベンチ・安全キャビネット	—	—	—	○	—	—
		冷蔵保管庫	○	○	○	○	○	○
		自動分包機	○	○	—	○	○	○
		医薬品管理システム	—	—	○	—	—	—
9	廃棄物処理	感染性器具廃棄容器	○	○	○	—	—	○
		感染性廃棄物保管庫	○	—	○	○	○	—
		感染性廃棄物処理施設	—	—	—	—	—	—
		感染性廃棄物処理委託	○	○	—	○	○	○
		産業廃棄物保管庫	○	○	○	○	○	○
		産業廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○
10	インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	○	○	○	○	○
		アクシデントレポート	○	○	○	○	○	—
		分析・改善立案	○	○	○	○	○	○
11	マニュアル	感染制御マニュアル	○	○	○	○	○	○
		事故防止マニュアル	○	○	○	○	○	○
12	外部評価	病院機能評価	○	○	○	○	○	○
		ISO9001	—	—	—	—	—	—
13	院内感染サーベイランス	MRSA	—	○	—	○	—	○
		疥癬	—	○	—	—	—	—
		術後感染	○	—	—	—	—	○
		手術スタッフ手指細菌検査	—	—	—	○	—	—
		手洗滅菌水細菌検査	—	—	—	○	—	—
		手術台細菌培養	○	—	—	—	—	—
		人工呼吸器関連肺炎	—	—	—	—	—	—
14	職業感染防止	手洗い評価	—	—	○	—	—	—
		抗体検査	○	○	○	○	○	○
15	賠償責任保険	インフルエンザワクチン	○	○	○	○	○	○
		病院が被保険者	○	○	○	○	○	○
16	安全管理人員配置	従業員が被保険者	○	—	○	○	—	—
		専任リスクマネージャー	—	○	—	—	—	—
		兼任リスクマネージャー	—	○	—	○	—	○
17	感染制御人員配置	施設管理者が兼任	○	—	○	—	○	—
		感染担当マネージャー	—	○	—	—	—	—
		リンクナース	—	—	—	—	—	—
		施設管理者が兼任	○	—	○	○	○	

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(2) 一般診療所（有床）の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	一般診療所（有床）			
		A	B	C	D
1 委員会・会合・院内研修	安全管理委員会	○	○	○	○
	感染防止対策委員会	○	○	○	○
	新人看護師の研修	○	○	○	—
	初任時研修・オリエンテーション	○	○	○	—
	内部レビュー・ラウンド	○	—	—	—
2 院外研修	安全管理研修	—	○	—	○
	感染制御研修	—	○	—	—
	その他の研修	—	○	—	—
3 安全管理機器・設備	看護支援端末	○	—	—	—
	警報装置	○	○	○	—
	転落防止器具	○	—	—	—
	衝撃吸収材	○	—	—	—
	テレビ監視装置	○	—	—	—
	手術用モニター	○	—	—	—
	手すり	—	○	—	—
4 感染制御機器・設備	消毒・洗浄剤	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○
	抗菌カテーテル	○	—	○	○
	抗菌床材	○	—	○	—
	陰圧隔離室	—	—	—	—
	オートクレーブ	○	○	○	—
	空気清浄機	—	○	—	—
5 医療機器、医薬品等の管理等	X線機器検査	—	○	—	—
	医薬品の管理・保守	○	○	—	—
6 廃棄物処理	廃棄物保管庫	—	○	—	—
	感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○
	非感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○
7 インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	○	○	○
	アクシデントレポート	○	—	○	—
	分析・改善立案	○	○	○	○
8 マニュアル	感染・消毒マニュアル	—	○	—	○
	事故防止マニュアル	—	○	—	○
	その他のマニュアル	○	—	—	—
9 外部評価	ISO9001	—	—	—	—
10 職業感染防止	抗体検査	—	○	○	○
	インフルエンザワクチン	○	○	○	—
	その他検査	—	○	—	—
11 賠償責任保険	医療機関が被保険者	○	○	○	○
	従業員が被保険者	—	—	○	—
12 安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	—	○	—	○
	施設長が兼任	○	—	○	—

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(3) 一般診療所（無床）の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	一般診療所（無床）					
		A	B	C	D	E	F
1 委員会・会合・院内研修	安全管理委員会	—	—	—	—	—	—
	感染防止対策委員会	—	—	—	—	—	—
	新人看護師の研修	—	—	—	—	—	○
	その他の会合・院内研修	○	—	—	○	○	○
2 院外研修	安全管理研修	—	○	—	○	—	○
	感染制御研修	—	○	○	—	○	—
	その他の研修	—	○	—	○	○	○
3 安全管理機器・設備	看護支援端末	—	—	—	—	—	—
	警報装置	—	—	—	—	—	○
	救急薬セット	—	—	○	—	—	—
	酸素ボンベと吸入マスク	—	—	○	—	—	—
4 感染制御機器・設備	消毒・洗浄剤	○	○	○	○	○	○
	グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○
	オートクレーブ	○	○	○	○	○	○
	空気清浄機	—	○	—	○	○	○
	滅菌灯（白癬菌用）	—	○	—	—	—	○
	その他機器	—	○	○	—	○	—
5 医療機器、医薬品等の管理等	X線機器検査	—	○	—	—	—	—
	医薬品の管理・保守	—	—	○	○	—	—
	麻酔カート	—	—	—	—	○	—
6 廃棄物処理	感染性廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○
	非感染性廃棄物処理委託	○	○	—	○	—	○
7 インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	—	—	—	○	○	—
	アクシデントレポート	—	—	—	—	—	—
	分析・改善立案	—	—	—	○	○	—
8 マニュアル	感染・消毒マニュアル	—	—	—	○	○	—
	事故防止マニュアル	—	—	—	—	—	—
	その他のマニュアル	—	—	—	○	○	—
9 外部評価	ISO9001	—	—	—	—	○	—
10 職業感染防止	抗体検査	—	○	—	—	○	—
	インフルエンザワクチン	○	○	○	○	○	○
	その他検査	—	—	—	○	○	—
11 賠償責任保険	医療機関が被保険者	○	—	○	○	○	○
	従業員が被保険者	—	○	—	—	○	○
12 安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	—	—	—	○	—	—
	施設長が兼任	○	○	○	—	○	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(4) 歯科診療所の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	歯科診療所							
		A	B	C	D	E	F	G	
1	委員会・会合・院内研修	安全管理委員会	○	○	○	—	○	○	—
		感染防止対策委員会	○	○	○	○	○	○	—
		医療事故調査委員会	○	○	—	○	—	○	—
2	院外研修	安全管理研修	○	—	—	—	—	○	—
		感染制御研修	—	○	○	—	○	—	—
3	安全管理機器・設備	モニター(酸素飽和度)	○	○	—	—	—	○	○
		血圧計	○	○	○	○	○	○	○
		救急薬セット	○	○	○	○	○	○	○
		エアウェイ	○	○	○	○	○	○	○
		人工呼吸用バッグ・マスク	○	○	○	—	—	○	—
		酸素ボンベと吸入マスク	○	○	○	○	○	○	○
		AED	○	—	—	—	—	—	—
		粉塵バキューム	—	○	—	○	○	—	○
		浄水器	○	○	—	—	—	○	○
4	感染制御機器・設備	消毒・洗剤	○	○	○	○	○	○	○
		グローブ・マスク・ガウン	○	○	○	○	○	○	○
		乾熱滅菌器	○	○	○	○	—	—	—
		その他滅菌器	○	○	○	○	○	○	○
		超音波洗浄器	—	○	○	○	○	○	○
		抗菌床材	—	—	—	○	—	—	—
5	医療機器、医薬品等の管理等	ユニット保守点検	—	○	—	—	○	○	○
		X線量測定	○	○	—	—	—	○	—
		医薬品の管理・保守	○	○	—	○	○	○	○
		薬品保冷庫	○	—	—	—	—	○	—
		麻酔カート	○	—	—	—	—	—	—
6	廃棄物処理	廃棄物保管庫	○	○	—	—	—	○	○
		感染性廃棄物処理委託	○	—	○	○	○	○	○
		その他廃棄物処理委託	○	○	○	○	○	○	○
7	インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	○	○	—	—	○	—
		アクシデントレポート	○	—	○	—	—	○	—
		分析・改善立案	○	○	○	—	—	○	—
8	マニュアル	感染・消毒マニュアル	○	—	○	○	○	○	—
		事故防止マニュアル	—	—	○	—	—	○	—
		診療マニュアル	○	○	—	—	—	○	—
		その他のマニュアル	—	○	—	—	○	○	—
9	外部評価	ISO9001	—	○	—	—	—	—	
10	職業感染防止	抗体検査	○	○	○	○	○	○	○
		インフルエンザワクチン	○	○	—	○	—	○	○
11	賠償責任保険	医療機関が被保険者	○	○	○	○	○	○	○
		従業員が被保険者	—	—	—	○	—	○	—
12	安全管理人員配置	安全管理責任者等任命	○	○	—	—	—	○	—
		施設長が兼任	—	—	○	○	○	—	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“—”は情報を得ていないことを示している。

(5) 保険薬局の取り組み状況

調査項目	取り組み内容	保険薬局										
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
1	委員会・会合・打合せ	安全対策委員会	－	－	○	○	－	－	○	－	○	－
		製薬会社 MR を招いての研修会	○	○	○	－	○	○	○	－	－	○
		その他の会合・打合せ	○	○	○	○	○	○	○	－	○	○
2	研修	内部研修	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－
		外部研修・学会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	調剤業務における安全対策	鑑査機器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		薬歴管理システム	○	○	○	－	○	－	－	○	○	○
		その他の機器	○	○	○	○	－	○	－	○	○	○
4	医薬品等の安全管理	規制医薬品のリスト化	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
		規制医薬品の区分保管	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		装置瓶、調剤棚への用法等の記載	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○
		薬剤の注意掲示	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
		薬剤の注意扉等への確認	○	－	－	○	○	○	○	○	－	－
		医薬品の検収	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		受発注に用いる機器	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	副作用防止	情報収集・管理体制整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		患者特定の仕組みの整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	感染制御および無菌製剤	使用済み注射針についての患者への広報	－	－	○	－	○	－	○	○	○	○
		感染性廃棄物分別保管	○	○	○	－	○	○	○	○	－	○
		感染性廃棄物処理委託	○	○	○	－	○	○	○	○	○	○
		クリーンベンチ	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－
7	インシデント・アクシデントレポート	インシデントレポート	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
		アクシデントレポート	－	－	－	○	○	○	○	○	－	－
		分析・改善立案	○	－	○	○	○	○	○	○	○	○
8	マニュアル	調剤業務マニュアル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		事故防止マニュアル	－	－	－	－	－	○	－	○	○	－
		機器操作マニュアル	○	－	－	－	－	－	－	－	○	－
		その他のマニュアル	－	－	－	○	－	－	○	○	○	－
9	外部評価	ISO9001	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
10	職業感染防止	抗体検査	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
		インフルエンザワクチン	－	－	○	－	○	－	－	○	○	○
		その他検査	－	－	－	－	－	○	○	－	－	－
11	賠償責任保険	薬局が被保険者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		従業員が被保険者	○	○	○	－	○	○	○	○	－	○
12	安全管理人員配置	安全管理責任者等の任命	－	－	○	○	－	－	－	－	○	－
		施設長が兼任	○	○	－	－	○	○	○	○	－	○

※表中の“○”は「取り組んでいる」との情報を得たことを、“－”は情報を得ていないことを示している。

4.2. 施設ごとの調査結果

【 病院 A： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	20～50 床	職員	医師	11～15 人
	療養病床割合	0%		歯科医師	0 人
患者	在院患者延べ数	約 1,100人		薬剤師	2 人
	初診患者数	約 700人		看護職員	36～40 人
	再診患者延べ数	約 5,300人		医療技術員	16～20 人
院外処方率		100%		その他の職員	6～10 人
医業収入(平成16年度1年間)		約 11.3億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 術後感染率調査、手術・手洗台細菌培養検査等の院内感染サーベイランスを実施している。
- ・ 薬剤師を 2 人配置し、活動の 3 割程度を薬歴管理・服薬指導にあてている。
- ・ 2002 年度に医療機能評価機構の評価を受審している。
- ・ 患者相談（苦情等を含む）窓口、投書箱を設置している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	990	3,450	・	3,450
	内部レビュー・ラウンド等	495	2,098	・	2,098
	院内研修	－	－	－	－
	院外研修・活動	192	670	94	764
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	34	34
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	4,496	4,496
	医療機器等の管理等	・	－	－	－
	医薬品等の管理等	・	20	544	564
	廃棄物処理・保管	・	・	2,597	2,597
その他	インシデント／アクシデントレポート	145	457	－	457
	院内感染サーベイランス	1	3	－	3
	職業感染防止対策	・	・	200	200
	賠償責任保険	・	・	675	675
合計		1,823	6,699	8,639	15,338
1病床当たり費用		・	137	176	313
職員1人当たり費用		・	84	108	192
医業収入割合		・	0.6%	0.8%	1.4%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“－” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	－	1,330	122	－	・	・
物件費	－	550	－	－	－	2,376
合計	－	1,880	122	－	－	2,376
医業収入割合	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%

【 病院 B： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	100～150 床	職員	医師	11～15 人
	療養病床割合	0%		歯科医師	0 人
患者	在院患者延べ数	約 3,400人	薬剤師	6～10 人	
	初診患者数	約 440人	看護職員	91～100 人	
	再診患者延べ数	約 8,100人	医療技術員	16～20 人	
院外処方率		100%	その他の職員	71～80 人	
医業収入(平成16年度1年間)		約 26.2億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 安全管理担当者として専任のリスクマネージャー（看護職）を 1 人配置している。
- ・ 病棟に薬剤師を配置するなど、医薬品安全管理を重視していることがうかがえる。
- ・ 医療機器が多く、臨床工学技士を 3 人配置。ME 機器メンテナンス講習も年 9 回受講している。
- ・ マニュアルは診療部を含め、各部門別に計 13 種類が整備されている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	1,306	5,365	.	5,365
	内部レビュー・ラウンド等	1,796	6,827	.	6,827
	院内研修	2,843	8,209	96	8,305
	院外研修・活動	464	1,906	770	2,676
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	5,486	5,486
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	23,757	23,757
	医療機器等の管理等	.	2,738	-	2,738
	医薬品等の管理等	.	80	664	744
	廃棄物処理・保管	.	.	9,016	9,016
その他	インシデント／アクシデントレポート	1,085	3,487	-	3,487
	院内感染サーベイランス	5	16	-	16
	職業感染防止対策	.	.	879	879
	賠償責任保険	.	.	3,913	3,913
合計		7,498	28,627	44,581	73,209
1病床当たり費用		.	202	314	516
職員1人当たり費用		.	136	212	348
医業収入割合		.	1.1%	1.7%	2.8%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	12,035	23,205	7,662	1,964	.	.
物件費	1,260	1,500	7,763	1,955	-	10,586
合計	13,295	24,705	15,425	3,919	-	10,586
医業収入割合	0.5%	0.9%	0.6%	0.1%	0.0%	0.4%

【 病院 C： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	50～100 床	職員	医師	6～10 人
	療養病床割合	51%		歯科医師	0 人
患者	在院患者延べ数	約 2,700人	薬剤師	3 人	
	初診患者数	約 250人	看護職員	41～45 人	
	再診患者延べ数	約 4,100人	医療技術員	6～10 人	
院外処方率		100%	その他の職員	31～35 人	
医業収入(平成16年度1年間)		約 11.2億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 各部門の責任者が安全管理、感染制御部の担当として位置づけられている。
- ・ 薬剤師を 3 人配置、薬歴管理・服薬指導を実施している。調剤は内服薬の一回量調剤を実施。
- ・ 感染制御サーベイランスとしては手洗い評価を実施。
- ・ 患者相談（苦情等を含む）窓口を設置している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	541	2,145	・	2,145
	内部レビュー・ラウンド等	79	263	・	263
	院内研修	322	1,040	25	1,065
	院外研修・活動	357	1,136	962	2,098
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	708	708
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	3,894	3,894
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	11	167	178
	廃棄物処理・保管	・	・	2,623	2,623
その他	インシデント／アクシデントレポート	104	334	-	334
	院内感染サーベイランス	6	19	10	29
	職業感染防止対策	・	・	87	87
	賠償責任保険	・	・	1,476	1,476
合計		1,408	4,948	9,951	14,899
1病床当たり費用		・	50	102	152
職員1人当たり費用		・	51	103	154
医業収入割合		・	0.4%	0.9%	1.3%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	1,552	984	72	・	・
物件費	-	1,960	85	20	-	-
合計	-	3,512	1,069	92	-	-
医業収入割合	0.0%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

【 病院 D： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	100～150 床	職員	医師	11～15 人
	療養病床割合	38%		歯科医師	1 人
患者	在院患者延べ数	約 2,900 人	薬剤師	4 人	
	初診患者数	約 300 人	看護職員	101～120 人	
	再診患者延べ数	約 6,900 人	医療技術員	21～25 人	
院外処方率		4%	その他の職員	46～50 人	
医業収入(平成16年度1年間)		約 20.0億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 兼任のリスクマネージャーを任命。
- ・ オーダリングシステムを導入、電子カルテを準備中。
- ・ 薬剤師が抗がん剤の調剤を実施。バイオハザードキャビネット、クリーンベンチを導入。
- ・ 臨床工学技士を 3 人配置。機器管理をするほか、各種撮影装置の点検を年 3 回ずつ実施。
- ・ 2004 年のインシデントレポートの分析・改善立案は月 1 回実施されている。
- ・ 賠償責任保険は病院、医師、薬剤師を被保険者としたもの。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	692	2,521	.	2,521
	内部レビュー・ラウンド等	384	1,485	.	1,485
	院内研修	72	217	60	277
	院外研修・活動	540	1,936	1,257	3,193
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	4,415	4,415
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	8,860	8,860
	医療機器等の管理等	.	1,076	9,171	10,247
	医薬品等の管理等	.	3	3,920	3,923
	廃棄物処理・保管	.	.	5,605	5,605
その他	インシデント／アクシデントレポート	72	237	1	237
	院内感染サーベイランス	2	8	2	10
	職業感染防止対策	.	.	354	354
	賠償責任保険	.	.	1,599	1,599
合計		1,761	7,483	35,245	42,728
1病床当たり費用		.	57	269	326
職員1人当たり費用		.	38	177	215
医業収入割合		.	0.4%	1.8%	2.1%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	740	582	.	.
物件費	-	5,543	50	-	109,572	6,902
合計	-	5,543	790	582	109,572	6,902
医業収入割合	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	5.5%	0.3%

【 病院 E： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	50～100 床	職員	医師	5 人
	療養病床割合	57%		歯科医師	0 人
患者	在院患者延べ数	約 1,700人	薬剤師	2 人	
	初診患者数	約 520人	看護職員	36～40 人	
	再診患者延べ数	約 600人	医療技術員	6～10 人	
院外処方率		99%	その他の職員	11～15 人	
医業収入(平成16年度1年間)		約 6.5億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 薬剤師を 2 人配置し、活動の 4 割程度を薬歴管理・服薬指導にあてている。
- ・ 薬剤師が注射剤の一部の混注を行っている。
- ・ 月に一度、全部署全薬剤の保管管理状況のチェックを実施している。
- ・ 2004 年のインシデントレポートの分析・改善立案は月 1 回実施されている。
- ・ 患者相談（苦情等を含む）窓口を設置している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	292	1,124	.	1,124
	内部レビュー・ラウンド等	-	-	.	-
	院内研修	444	1,188	37	1,225
	院外研修・活動	120	348	158	506
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	211	211
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	2,766	2,766
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	140	273	413
	廃棄物処理・保管	.	.	326	326
その他	インシデント／アクシデントレポート	490	1,702	-	1,702
	院内感染サーベイランス	-	-	-	-
	職業感染防止対策	.	.	229	229
	賠償責任保険	.	.	771	771
合計		1,346	4,503	4,772	9,275
1病床当たり費用		.	75	80	155
職員1人当たり費用		.	66	70	136
医業収入割合		.	0.7%	0.7%	1.4%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	45,771	-	1,918	680	.	.
物件費	1,600	-	60	-	500	-
合計	47,371	-	1,978	680	500	-
医業収入割合	7.3%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%

【 病院 F： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

病床	許可病床	50～100 床	職員	医師	6～10 人
	療養病床割合	42%		歯科医師	0 人
患者	在院患者延べ数	約 2,200人	薬剤師	3 人	
	初診患者数	約 600人	看護職員	41～45 人	
	再診患者延べ数	約 3,500人	医療技術員	16～20 人	
院外処方率		0%	その他の職員	11～15 人	
医業収入(平成16年度1年間)		約 11.6億円			

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ リスクマネジメント委員長 1 名及びリスクマネジャーを 8 名配し、何れも兼任である。委員長は看護部長が、リスクマネジャーは各部署の責任者が就いている。
- ・ レジオネラ菌検査を実施している。
- ・ 内部レビューとしては院内感染ラウンドのほか、抗生剤のプリックテストを実施している。
- ・ 内部研修は 14 種類、延 27 回開催している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合	1,056	3,994	.	3,994
	内部レビュー・ラウンド等	2	7	.	7
	院内研修	550	1,684	-	1,684
	院外研修・活動	92	303	63	366
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	112	112
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	3,789	3,789
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	-	-	-
	廃棄物処理・保管	.	.	7,615	7,615
その他	インシデント／アクシデントレポート	1	2	-	2
	院内感染サーベイランス	0	0	57	57
	職業感染防止対策	.	.	74	74
	賠償責任保険	.	.	1,044	1,044
合計		1,701	5,990	12,755	18,745
1病床当たり費用		.	68	145	213
職員1人当たり費用		.	69	147	216
医業収入割合		.	0.5%	1.1%	1.6%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	10	33	-	.	.
物件費	-	1,292	-	-	300	-
合計	-	1,302	33	-	300	-
医業収入割合	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（有床）A：基本情報（平成16年6月の状況）】

病床	許可病床	11～19床	職員	医師	3人
	療養病床割合	0%		歯科医師	0人
患者	在院患者延べ数	約500人	員	薬剤師	0人
	初診患者数	約410人		看護職員	16～20人
	再診患者延べ数	約6,700人		その他の職員	11～15人
院外処方率		0%	主たる診療科目		脳神経外科
医業収入(平成16年度1年間)		約7.6億円			

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・ 医療安全、感染制御の委員会を設けている。また、全員参加の朝礼を週1回実施している。
- ・ 責任感を持ち、自主的に行動するように職員全員が何らかの現場責任者になっている。
- ・ 手術用のモニターの導入も行っている。
- ・ 点滴、投薬の際の確認作業、手術劇薬・毒薬・麻酔薬の管理作業を定常的に実施している。
- ・ マニュアル等に定められている確認作業の種類は増えている。同意書は2種類ある。
- ・ 通所リハビリテーションとの連絡会議を月2回開催している。
- ・ 臨床研修医の安全管理、感染制御指導に取り組んでいる。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	45	155	・	155
	院外研修・活動	-	-	-	-
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	1,214	1,214
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	1,649	1,649
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	1,200	-	1,200
	廃棄物処理・保管	・	・	73	73
その他	インシデント／アクシデントレポート	14	49	122	170
	職業感染防止対策	・	・	25	25
	賠償責任保険	・	・	23	23
合計		59	1,404	3,106	4,510
職員1人当たり費用		・	29	65	94
医業収入割合		・	0.2%	0.4%	0.6%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	・	・
物件費	-	-	100	-	-	-
合計	-	-	100	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（有床）B：基本情報（平成16年6月の状況）】

病床	許可病床	11～19床	職員	医師	2人
	療養病床割合	63%		歯科医師	0人
患者	在院患者延べ数	約560人	員	薬剤師	0人
	初診患者数	約400人		看護職員	11～15人
	再診患者延べ数	約4,900人		その他の職員	16～20人
院外処方率	0%	主たる診療科目		循環器科、外科	
医業収入(平成16年度1年間)		約3.5億円			

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・安全管理の責任者として事務長、安全推進担当者として看護師が任命されている。
- ・内部での委員会、打ち合わせ等だけでなく、外部の研修会にも積極的に参加している。
- ・インシデントレポートの作成には1999年から取り組んでいる。
- ・患者誤認防止のためダブルチェックしている。また、入浴前後の状態確認を実施している。
- ・マニュアルに定められた確認作業は15種類ある。また、同意書は3種類ある。
- ・病院、他の診療所、薬局、訪問看護ステーションと情報提供の形で機能連携している。
- ・担当者を配置しての患者相談窓口を設置している。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用			
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	342	1,096	1,096
	院外研修・活動	186	659	835
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	192
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	384
	医療機器等の管理等	.	-	-
	医薬品等の管理等	.	-	27
	廃棄物処理・保管	.	.	293
その他	インシデント／アクシデントレポート	6	19	19
	職業感染防止対策	.	.	178
	賠償責任保険	.	.	42
合計		534	1,773	3,066
職員1人当たり費用		.	57	98
医業収入割合		.	0.5%	0.4%
				0.9%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	88	21	.	.
物件費	-	-	120	22	-	-
合計	-	-	208	43	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（有床）C：基本情報（平成16年6月の状況）】

病床	許可病床	11～19床	職員	医師	1人
	療養病床割合	24%		歯科医師	0人
患者	在院患者延べ数	約450人	員	薬剤師	0人
	初診患者数	約240人		看護職員	11～15人
	再診患者延べ数	約3,000人		その他の職員	6～10人
院外処方率		0%	主たる診療科目		整形外科
医業収入(平成16年度1年間)		約2.1億円			

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・ 整形外科が主たる診療科であるが、それ以外にリウマチ科、リハビリテーション科も標榜。
- ・ インシデント・アクシデントレポートについては月1回定期的にその内容について話し合う時間を設けている。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	384	1,284	・	1,284
	院外研修・活動	-	-	-	-
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	-	-
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	134	134
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	-	-	-
	廃棄物処理・保管	・	・	483	483
その他	インシデント／アクシデントレポート	17	58	-	58
	職業感染防止対策	・	・	11	11
	賠償責任保険	・	・	135	135
合計		401	1,342	763	2,105
職員1人当たり費用		・	67	38	105
医業収入割合		・	0.7%	0.4%	1.0%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	・	・
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（有床）D：基本情報（平成16年6月の状況）】

病床	許可病床	11～19床	職員	医師	1人
	療養病床割合	95%		歯科医師	1人
患者	在院患者延べ数	約570人	員	薬剤師	0人
	初診患者数	約30人		看護職員	6～10人
	再診患者延べ数	約1,200人		その他の職員	6～10人
院外処方率		0%	主たる診療科目		内科
医業収入(平成16年度1年間)		約2.1億円			

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・主たる診療科は内科であり、その他に消化器科、循環器科も標榜している。
- ・施設管理者である医師が医療安全管理責任者、看護師1名が安全管理代表責任者となり、それ以外に看護師1名、技能労務員2名が安全管理担当者となっている。
- ・インシデントレポートの作成には1990年代から取り組んでいる。
- ・院内感染防止マニュアル、医療事故防止マニュアルを作成、整備している。
- ・患者誤認防止、処方せん内容の確認を行っている。
- ・血液製剤投与、造影剤使用にあたっては、慎重に説明を行っている。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	58	196	・	196
	院外研修・活動	18	65	12	77
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	36	36
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	679	679
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	-	-	-
	廃棄物処理・保管	・	・	238	238
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	-
	職業感染防止対策	・	・	34	34
	賠償責任保険	・	・	-	-
合計		76	260	999	1,260
職員1人当たり費用		・	14	56	70
医業収入割合		・	0.1%	0.5%	0.6%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	1	-	・	・
物件費	-	-	2	-	-	-
合計	-	-	3	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（無床）A：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 200人
	再診患者延べ数	約 800人
	院外処方率	100%
	医業収入(平成16年度1年間)	約 1.0億円

職員	医師	1人
	歯科医師	0人
	薬剤師	0人
	看護職員	3人
	その他の職員	5人
主たる診療科目		神経内科

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・ 主たる診療科目である神経内科以外に、内科、小児科、耳鼻咽喉科も標榜。
- ・ 医療安全のために、内部レビュー・ラウンドに取り組んでいる。
- ・ 1990年の開設時より、手洗い機器やオートクレーブを導入するなど、早い時期から医療安全に對しての取り組みがみられる。
- ・ 病院、介護事業者と情報提供の形で機能連携している。連携件数は、両者ともに月間1～2件である。
- ・ 防犯システムを10年以上前に導入した。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	6	24	・	24
	院外研修・活動	-	-	-	-
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	-	-
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	132	132
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	-	9	9
	廃棄物処理・保管	・	・	59	59
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	6	6
	職業感染防止対策	・	・	10	10
	賠償責任保険	・	・	92	92
合計		6	24	308	332
職員1人当たり費用		・	3	34	37
医業収入割合		・	0.0%	0.3%	0.3%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	・	・
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（無床）B：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 300人
	再診患者延べ数	約 2,000人
院外処方率		100%
医業収入(平成16年度1年間)		約 1.1億円

職員	医師	2人
	歯科医師	0人
	薬剤師	0人
	看護職員	1人
	その他の職員	4人
主たる診療科目		呼吸器科、循環器科

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・内視鏡を扱うために、その洗浄装置を導入している。
- ・院外処方のため薬剤の取り扱いには肝炎患者用の注射が主なものになっている。
- ・肝炎患者がいるため、抗体検査を実施している。
- ・医事紛争のための外部委員会に参加し、対策検討に取り組んでいる。
- ・内視鏡、神経ブロック使用時に特に説明に注意している。
- ・病院、薬局、介護事業者と情報提供の形で機能連携している。連携件数は、病院が月間20件、薬局が月間100件、介護事業者が月間2～3件である。
- ・受付で患者への投薬内容について過去の薬歴とのチェックを行っている。受付スタッフの交代はほとんどないため、患者の把握ができる。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	-	-	-	
	院外研修・活動	114	692	692	
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	-	
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	1,005	
	医療機器等の管理等	.	-	480	
	医薬品等の管理等	.	-	18	
	廃棄物処理・保管	.	.	264	
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	
	職業感染防止対策	.	.	21	
	賠償責任保険	.	.	140	
合計		114	692	1,928	2,621
職員1人当たり費用		.	99	275	374
医業収入割合		.	0.6%	1.8%	2.4%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	.	.
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（無床）C：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 240人
	再診患者延べ数	約 1,400人
院外処方率		99%
医業収入(平成16年度1年間)		約 1.5億円

職員	医師	2人
	歯科医師	0人
	薬剤師	0人
	看護職員	3人
	その他の職員	3人
主たる診療科目		内科

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・一部院外処方もあるが、大半が院内処方。
- ・インシデント・アクシデントレポートの作成はなかったものの、ヒヤリハット事例に関するミーティングが開催されている。
- ・感染制御のために隔離室を設けている。
- ・患者の自己決定への説明は月40人程度に対して行っている。
- ・病院への紹介が月間70件程度、病院からの逆紹介が月間10件程度、訪問看護ステーションとの連携も月間5～10件程度ある。
- ・施設長が地域ケア会議の議長を努め、3ヶ月に1回会合を開催している。
- ・地域情報網を利用した安全情報の収集を行っている。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	12	48	.	48
	院外研修・活動	1	7	1	8
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	11	11
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	387	387
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	-	14	14
	廃棄物処理・保管	.	.	500	500
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	-
	職業感染防止対策	.	.	24	24
	賠償責任保険	.	.	150	150
合計		13	55	1,087	1,141
職員1人当たり費用		.	7	136	143
医業収入割合		.	0.0%	0.7%	0.8%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	.	.
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（無床）D：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 230人	職員	医師	1人
	再診患者延べ数	約 900人		歯科医師	0人
	院外処方率	100%		薬剤師	0人
	医業収入(平成16年度1年間)	約 0.9億円		看護職員	3人
				その他の職員	3人
			主たる診療科目	小児科	

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・施設管理者である医師が医療安全管理責任者、看護師1名が医療安全対策担当者となっている。
- ・医療安全に関するマニュアル、感染予防マニュアル、医薬品取り扱い規約を医師と事務職員で作成している。
- ・ワクチン等在庫保管や管理、要指導薬の在庫保管や管理をそれぞれ毎週、2週間に1度程度実施している。
- ・患者誤認防止、医薬品等の誤認防止、処方せん内容の確認を行っている。
- ・マニュアルに基づき、医療者間及び医療者・患者間の確認作業を行っている。
- ・保険薬局との間で診療情報提供のため月間50件程度連携をはかっている。
- ・患者相談窓口をホームページ上に開設している。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	33	122	・	122
	院外研修・活動	20	121	63	184
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	-	-
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	294	294
	医療機器等の管理等	・	-	-	-
	医薬品等の管理等	・	28	52	80
	廃棄物処理・保管	・	・	226	226
その他	インシデント／アクシデントレポート	3	13	-	13
	職業感染防止対策	・	・	195	195
	賠償責任保険	・	・	80	80
合計		56	284	910	1,195
職員1人当たり費用		・	36	114	149
医業収入割合		・	0.3%	1.1%	1.4%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	164	38	・	・
物件費	-	-	34	13	260	27
合計	-	-	198	51	260	27
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.3%	0.0%

【一般診療所（無床）E：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 200人
	再診患者延べ数	約 2,200人
院外処方率		0%
医業収入(平成16年度1年間)		約 1.5億円

職員	医師	1.8人
	歯科医師	0人
	薬剤師	0人
	看護職員	6~10人
	その他の職員	5人
主たる診療科目		内科

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・ 同一法人内で老人保健施設、デイケアも運営。デイケアは同一建物内にある。
- ・ 医療安全のために、医師だけではなく看護師長も関わっているほか、品質・リスク管理マネージャーを配置している。内部レビューのための監査員も別途任命している。
- ・ 2002年にISO9001を取得した。その後毎年維持審査を受審している。その過程で各種マニュアルをすべて整備して、保管場所、更新状況等も一括管理するようになった。新規受審の際には外部のコンサルタントを招き、コンサルを依頼した。
- ・ 医師間また医師と看護師の間の連絡のために、カルテに記載する内容が標準化された。標準化されたことにより、医師間で診療内容の確認が行えるようになった。
- ・ 内視鏡の使用にあたっては、説明を慎重に行い、同意書をとっている。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名	年間費用			
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	3	9	9
	院外研修・活動	32	74	74
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	-
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	1,273
	医療機器等の管理等	.	-	166
	医薬品等の管理等	.	-	-
	廃棄物処理・保管	.	.	336
その他	インシデント／アクシデントレポート	4	12	12
	職業感染防止対策	.	.	48
	賠償責任保険	.	.	74
合計		39	95	1,896
職員1人当たり費用		.	7	154
医業収入割合		.	0.1%	1.2%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	102	2	60	-	.	.
物件費	6,943	428	20	-	-	-
合計	7,045	430	80	-	-	-
医業収入割合	4.6%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

【一般診療所（無床）F：基本情報（平成16年6月の状況）】

患者	初診患者数	約 60人	職員	医師	1人
	再診患者延べ数	約 700人		歯科医師	0人
	院外処方率	0%		薬剤師	0人
	医業収入(平成16年度1年間)	約 1.0億円		看護職員	3人
				その他の職員	2人
			主たる診療科目	小児科	

【医療安全に関する取り組み状況】

- ・ 主たる診療科は小児科。アレルギー科も標榜している。
- ・ 施設の管理者が医療安全の管理者となっている。
- ・ 医療安全を重視していることをホームページ上で掲載している。
- ・ 患者同士での感染を防ぐため、隔離待合室を設けている。また健診や予防接種に来た人のためには入り口を別にした部屋を設けている。
- ・ 医の倫理・医療安全講習会や医療事故防止講習会に参加している。

【医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間）】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	83	273	.	273
	院外研修・活動	6	40	13	53
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	86	86
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	155	155
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	-	-	-
	廃棄物処理・保管	.	.	72	72
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	-
	職業感染防止対策	.	.	11	11
	賠償責任保険	.	.	188	188
合計		89	313	524	838
職員1人当たり費用		.	45	75	120
医業収入割合		.	0.3%	0.5%	0.8%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	-	-	.	.
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【 歯科診療所A： 基本情報（平成16年6月の状況） 】

患者	初診患者数	約 250人	職員	歯科医師	16～20 人
	再診患者延べ数	約 8,200人		歯科衛生士	36～40 人
	院外処方率	100%		歯科技工士	6～10 人
	医業収入(平成16年度1年間)	約 10.2億円		事務職員	11～15 人
				その他の職員	5 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 比較的大規模の歯科診療所であり、歯科技工室がある。技工物は一部外注。
- ・ 安全管理責任者、安全管理推進者、安全管理担当者を任命している。
- ・ 安全管理部門定例会議として理事会、運営会議、主任会議が定例的に開かれているほか、医薬品及び感染制御に関する診療所会議が月1回の頻度で開催されている。
- ・ インシデント及びアクシデントレポートの分析・改善策立案等の活動を月1回程度行っている。
- ・ 診療マニュアル、診療介助マニュアル、及び感染・消毒マニュアルを作成している。
- ・ 心電計、患者監視装置、患者監視モニター、監視除細動装置を導入している。
- ・ 高圧蒸気滅菌機、ホルマリンガス殺菌器を導入している。
- ・ 消毒キャビネット、手洗いキャビネットを複数設置している。
- ・ 患者相談（苦情等を含む）窓口を設置している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成16年度1年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	2,422	11,362	.	11,362
	院外研修・活動	24	75	300	375
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	1,618	1,618
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	5,333	5,333
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	50	95	145
	廃棄物処理・保管	.	.	1,092	1,092
その他	インシデント／アクシデントレポート	139	632	-	632
	職業感染防止対策	.	.	163	163
	賠償責任保険	.	.	368	368
合計		2,585	12,118	8,968	21,086
職員1人当たり費用		.	153	114	267
医業収入割合		.	1.2%	0.9%	2.1%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	1,765	-	.	.
物件費	-	-	-	-	160	-
合計	-	-	1,765	-	160	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%

【 歯科診療所 B： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

患者	初診患者数	約 270人
	再診患者延べ数	約 1,800人
	院外処方率	0%
	医業収入(平成16年度1年間)	約 2.1億円

職員	歯科医師	6～10 人
	歯科衛生士	2 人
	歯科技工士	3 人
	事務職員	3 人
	その他の職員	6～10 人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 安全管理委員会、感染防止対策委員会、医療事故調査委員会を開催し、ほかに QMS 講習、全職員によるスタッフミーティングを月 1 回の頻度で実施している。
- ・ 歯科医師を中心に、院外の麻酔科研修会及び院内感染研修会に参加している。
- ・ スタッフマニュアル、品質マニュアル、教育訓練記録を作成している。
- ・ ユニットの定期点検、X 線量測定を定期的に外注で実施。医薬品の管理・保守に関する勉強会を年 2 回開催している。ホルマリンガス殺菌器を導入している。
- ・ ISO9001 を 2005 年度に受審しており、2006 年度に更新受審している。
- ・ 一般診療所、病院、介護事業者と情報提供の形で機能連携している。連携件数は、一般診療所が月間 5 件、病院が月間 3 件、介護事業者が月間 10 件である。
- ・ 患者相談（苦情等を含む）窓口を設置し、担当歯科医師が苦情担当係として対応している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	468	1,622	・	1,622
	院外研修・活動	46	212	40	252
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	937	937
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	1,043	1,043
	医療機器等の管理等	・	150	-	150
	医薬品等の管理等	・	132	-	132
	廃棄物処理・保管	・	・	164	164
その他	インシデント／アクシデントレポート	47	214	-	214
	職業感染防止対策	・	・	30	30
	賠償責任保険	・	・	10	10
合計		561	2,330	2,223	4,553
職員 1 人当たり費用		・	117	111	228
医業収入割合		・	1.1%	1.1%	2.2%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT 機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	287	126	533	192	・	・
物件費	3,500	350	50	50	150	-
合計	3,787	476	583	242	150	-
医業収入割合	1.8%	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%

【 歯科診療所 C： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

患者	初診患者数	約 100人	職員	歯科医師	1人
	再診患者延べ数	約 400人		歯科衛生士	1人
	院外処方率	0%		歯科技工士	1人
	医業収入(平成16年度1年間)	約 0.3億円		事務職員	1人
			その他の職員		0人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 安全管理の責任者は施設の管理者が兼務。
- ・ 医療安全に関する会合を開くと共に、感染対策マニュアル研修を院内で実施している。
- ・ 歯科医師が、感染症講演会や HIV 歯科診療に関する研究会・協議会に参加している。
- ・ インシデントレポート及びアクシデントレポートの作成には 1998 年度から取り組んでいるが、2004 年度は発生していない。
- ・ 感染対策マニュアル、針刺事故対策マニュアルを作成している。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名		年間費用			
		人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]
人的投資	委員会・会合・院内研修等	120	394	.	394
	院外研修・活動	10	61	28	89
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	170	170
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	939	939
	医療機器等の管理等	.	-	-	-
	医薬品等の管理等	.	-	-	-
	廃棄物処理・保管	.	.	27	27
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	-
	職業感染防止対策	.	.	12	12
	賠償責任保険	.	.	15	15
合計		130	455	1,191	1,646
職員1人当たり費用		.	114	298	411
医業収入割合		.	1.4%	3.7%	5.1%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	46	23	.	.
物件費	-	-	15	3	-	-
合計	-	-	61	26	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%

【 歯科診療所 D： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

患者	初診患者数	約 70人
	再診患者延べ数	約 820人
	院外処方率	4%
	医業収入(平成16年度1年間)	約 0.9億円

職員	歯科医師	2人
	歯科衛生士	1人
	歯科技工士	1人
	事務職員	1人
	その他の職員	1人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 感染防止対策委員会、医療事故調査委員会を開催し、ほかにインプラント事故検証会（年 2 回）、スタッフミーティング（月 1 回）を開催している。
- ・ 超音波洗浄器を 5 台使用している。乾熱滅菌器のほか、アルコール滅菌器、ホルマリンガス殺菌器を導入している。また、月 2 回業者委託で院内清掃・消毒を行っている。
- ・ 器械・器具を年 2 回総点検するほか、滅菌器の作動確認（出張点検）、回転切削器具の整備・外部修理、バー類のチェックと交換、治療用ミラーの全交換などがなされている。
- ・ 医療者間の確認作業として、外科手術依頼の際にカルテ、レントゲンで二重に確認している。
- ・ 患者への説明として、デジタルレントゲンコピー、口腔カメラを使用した患者の自己決定のための説明を行うと共に、検査結果記入文書を活用した注意事項の説明を行っている。
- ・ 機能連携として、医科主治医との意見交換が月 3 件ある。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	92	348	.	348
	院外研修・活動	8	35	1	36
設備	安全管理に係る機器・設備等	.	.	348	348
	感染制御に係る機器・設備等	.	.	3,877	3,877
	医療機器等の管理等	.	600	465	1,065
	医薬品等の管理等	.	-	27	27
	廃棄物処理・保管	.	.	45	45
その他	インシデント／アクシデントレポート	-	-	-	-
	職業感染防止対策	.	.	24	24
	賠償責任保険	.	.	78	78
合計		100	982	4,866	5,848
職員1人当たり費用		.	164	811	975
医業収入割合		.	1.1%	5.7%	6.8%

注) “.” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	-	-	29	12	.	.
物件費	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	29	12	-	-
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【 歯科診療所 E： 基本情報（平成 16 年 6 月の状況） 】

患者	初診患者数	約 50人
	再診患者延べ数	約 300人
	院外処方率	0%
	医業収入(平成16年度1年間)	約 0.5億円

職員	歯科医師	1人
	歯科衛生士	1人
	歯科技工士	0人
	事務職員	1人
	その他の職員	3人

【 医療安全に関する取り組み状況 】

- ・ 感染症対策講習会、HIV 歯科診療に関する研究会に参加している。
- ・ 消毒マニュアル、スタッフ教育マニュアルを作成し、それぞれ適宜更新している。
- ・ 高圧蒸気滅菌器及び超音波洗浄器を導入。また、ユニットの保守点検を年 2 回行っている。
- ・ 医療者間の確認を確実にするため、週 1 回全職員参加のスタッフミーティングを開催している。
- ・ マニュアルに定められている医療者間の確認作業は 2 種類で、1 日 5 件程度。
- ・ 患者の自己決定のための説明は 1 日平均 2 件、1 件の説明に平均して 20 分程度かけている。
- ・ 診療行為前後の注意事項の説明は年間で約 200 件、1 件当たり 15 分程度かけている。
- ・ 機能連携として、薬局との処方内容についての確認などを行っている。
- ・ 患者 1 人ごとに器材へのバリアフィルムの貼付やヘッドカバー交換を含む前準備を行っており、歯科助手が 5 分程度かかっている。また、滅菌消毒に 1 日当たり延べ 2 時間程度かかっている。

【 医療安全の取り組みに係る費用（平成 16 年度 1 年間） 】

項目名	年間費用				
	人員の投入量 [人時]	①人件費 [千円]	②物件費 [千円]	①+② [千円]	
人的投資	委員会・会合・院内研修等	90	316	・	316
	院外研修・活動	28	138	43	181
設備	安全管理に係る機器・設備等	・	・	70	70
	感染制御に係る機器・設備等	・	・	2,198	2,198
	医療機器等の管理等	・	100	・	100
	医薬品等の管理等	・	2	14	15
	廃棄物処理・保管	・	・	120	120
その他	インシデント／アクシデントレポート	・	・	・	・
	職業感染防止対策	・	・	11	11
	賠償責任保険	・	・	8	8
合計		118	555	2,464	3,019
職員1人当たり費用		・	93	411	503
医業収入割合		・	1.2%	5.2%	6.3%

注) “・” 該当データがない・ありえない、“-” ゼロ、“0” 値が小さいがゼロではない。

(別掲) ※外部評価、マニュアル作成、IT 機器のコストは年間費用に含まれていない。

	外部評価		マニュアル作成		IT機器(導入費用)	
	新規受審	更新受審	新規作成	更新	購入費	リース料
人件費	・	・	25	12	・	・
物件費	・	・	9	9	・	・
合計	・	・	34	21	・	・
医業収入割合	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%